

機関番号：21201
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20791730
 研究課題名（和文）：妊娠・出産の時期における中国人女性と日本人家族の関係構築に向けての看護ケア
 研究課題名（英文）：Nursing support for the construction of relationships between Chinese women and their Japanese families during pregnancy and postpartum periods
 研究代表者：
 蛎崎 奈津子 (KAKIZAKI NATSUKO)
 岩手県立大学・看護学部・講師
 研究者番号：80322337

研究成果の概要（和文）：中国人女性と日本人家族の双方に効果的な家族関係構築に向けた看護支援を検討することを目的に研究を遂行した。その結果、中国人女性と夫は夫婦関係の構築にあたって「2つの文化的世界の保持」に向けた知恵に根ざした様々な行動を起こしていた。また中国以外の在日外国人女性に対する調査では、中国人と比較し言葉の問題において大きな困難を抱えていた。以上より、中国人女性と日本人家族が抱える課題や利点をふまえ、先導的な支援とともに、知恵ともいえるべき様々な行動の具体例を伝え、各人に適した家族関係の構築を支援する必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the nursing support for construction of relationships between Chinese women and their Japanese families during pregnancy and postpartum periods. The results showed that the intellectual attitudes important for building a good family relationship fell into one core category: "maintaining two cultural worlds." The foreign women were holding the great difficulty in the language problem compared with Chinese women. On the basis of these results, I suggest that nurses promote the construction of a couple's relationship by emphasizing the potential contribution of each individual partner, and the nurturing of an intellectual attitude that allows each partner to respect the cultural context of the other.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000円	180,000円	780,000円
2009年度	500,000円	150,000円	650,000円
2010年度	500,000円	150,000円	650,000円
年度			
年度			
総計	1,600,000円	480,000円	2,080,000円

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学

キーワード：在日外国人, 妊娠・出産, 家族関係, 中国, 国際結婚

1. 研究開始当初の背景

1980年代に入り嫁不足対策として農村における国際結婚が社会問題化した。これまでのさまざまな学問分野における知見の蓄積により、農村にて結婚した外国人女性においては日本人家族との人間関係における問題が、日常生活はもとより健康状態に非常に大きな影響を与えうることが示唆されている。また彼女たちは来日・結婚後数ヶ月で妊娠を経験することが多いのが特徴であるが、このような意味でも日本の医療と初めて接点をもつ機会となりうる「妊娠・出産」時には、日本人家族との人間関係に目を向けた看護ケアが非常に重要な意味をもつものと考えられている。しかし外国人のみならず、日本人妊産婦の家族関係の構築に関するケア展開は、その必要性が叫ばれながらも、方法論的に十分に確立されているとはいいがたい現状が続いている。

そこで、研究者は主に岩手県における在日外国人のうち、近年、外国人登録数が増加傾向にある中国人女性を対象を絞り、農村に嫁いだ中国人女性の妊娠・出産体験のなかにおける日本人家族との関係性に関する調査を行ってきた。その結果、日本人家族との関係性において感情的な問題が表面化する時期は「産後の時期」であり、それには日中間の慣習が投影する家族に期待される役割の相違が大きく関与していた。またこの問題は「夫への信頼感が強く」、「家庭内で相互理解の機会が習慣化されている」場合には表出されないことが把握できた。また、これまでの研究活動では看護の主な対象となる中国人女性を主軸に調査を実施してきたが、外国人女性を嫁として迎える日本人家族側にも特有の思いがあることが報告されている。したがって、家族関係のあり

方や構築に向けた支援を検討する上で、夫や義父母など日本人家族の思いや体験を把握することは重要な課題であり、次項に記す研究目的を設定し、調査を実施する計画を立案した。

2. 研究の目的

本研究では、中国人女性と国際結婚した日本人男性、およびその両親の体験の様相を把握し、中国人女性および日本人家族の双方に効果的な家族関係構築に向けた看護支援を検討することを目的とする。その具体的な目的は以下の3点である。

- (1) 中国人女性の妊娠・出産時における、彼女と国際結婚した日本人男性やその家族がとらえる家族関係構築に関する現状、思いなど体験の様相を把握する。
- (2) 国籍や在留資格の異なる者の場合と比較し、中国人女性とその家族に対する支援の特性を明らかにする。
- (3) 中国人女性の妊娠・出産時における、彼女と国際結婚した日本人男性やその家族間の円滑な人間関係構築に向けた看護支援のあり方について考察する。

3. 研究の方法

(1) 研究目的 (1) について

- ・研究対象者：中国人女性と国際結婚した日本人男性とその家族である。対象者の選定にあたっては、これまでの研究活動で知り合った人を通じて、または岩手県国際交流協会など関連機関に協力をいただく。
- ・研究内容, 方法：中国人女性と国際結婚した日本人男性, その家族に対し, 結婚から妊娠・出産時における家族関係の様相や, 各人

の思いについて把握する。そのため、方法は半構成的面接法を選択し、各人の体験に関する詳細な記述を得る。面接の実施に関しては、日時および場所などは対象者の希望を最優先し、計画する。同意が得られた者には面接内容の録音を行う。

- ・分析方法：面接終了後は、ただちに面接内容を記述し、同時にフィールドノートを作成する。その後、内容比較分析法を基盤とし、結婚から妊娠・出産時における家族関係の様相について把握する。
- ・倫理的配慮：研究対象者に対し、研究の趣旨、研究参加の自由意思、途中辞退の自由、プライバシーの保護、個人情報への厳守、研究論文の公表の可能性について、文書を用いて口頭で説明する。

(2) 研究目的 (2) について

- ・対象者の選定：国籍や在留資格の異なる者の場合と比較し、中国人女性とその家族に対する支援の特性を明らかにするために、国籍については日本、フィリピン、在留資格については、留学生に焦点を絞り対象の選定を行う。
- ・研究内容、方法：国籍や在留資格の異なる対象者の体験の様相を把握する。方法は研究目的(1)と同様の半構成的面接法を用いる。
- ・分析方法：上記に記した研究目的(1)と同様の手順を踏んで、分析作業をすすめる。
- ・倫理的配慮：上記に記した研究目的(1)と同様である。

(3) 研究目的 (3) について

- ・研究目的(1)および(2)の結果をもとに、考察を行う。適宜、外国人母子やその家族への支援を担っている者（日本語教室運営者や子育て支援ネットワーク運営者など）に、外国人母子の日々の暮らしの状況、日本人家族との関係性に関する現状等について、意見を頂く機会を設け、日常生活上で効果

を発揮しうる支援方法の検討、ならびに考察を深める作業を行う。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

本研究を遂行した結果、中国人女性と夫は夫婦関係の構築にあたって「2つの文化的世界の保持」に向けた知恵に根ざした様々な行動を起こしていた。また中国以外の在日外国人助成に対する調査では、中国人と比較し言葉の問題において大きな困難を抱えていた。以上より、中国人女性と日本人家族が抱える課題や利点をふまえ、先導的な支援とともに、知恵ともいべき様々な行動の具体例を伝え、各人に適した家族関係の構築を支援する必要性が示唆された。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

多くの文化において、妊娠・出産は単なる生理的現象と捉えられることはなく、常に社会的に形成されうる体験とみなされている。特に最も身近な存在である家族員との人間関係からは大きな影響を受ける。しかし、外国人女性と日本人家族との問題に関しては、改善に向けた支援の困難さが長らく指摘されている。初期対応が遅れ、問題が表面化した時点ではすでに家族員同士での感情的ないざこざが深刻化している場合が少なくない。

しかし、現在、国際結婚をした外国人女性への支援策として検討されているものは、家族関係構築の基本となる日本語習得にむけた体制づくりや、基本的な行政サービスの整備、自分自身の位置づけを実感するような自助組織や日本人女性との交流などであり、深刻な問題として顕在している日本人家族との人間関係に関する課題については、その方向性がいまだ見いだせない状況となっている。

このような状況のなか、本調査における対象者の語りから、妊娠期の後、つまり産後の時

期に家族内で感情的な問題が生じることがあり、妊娠期における家族関係構築に向けた関わり の意義が示唆された。加えて在留資格に着目した場合、農村地域の日本人男性と国際結婚した者については、妊婦健診受診率や母子保健統計における指標については日本人と大差はないとされている。この妊婦健診時を利用し、家族内での役割模索や異文化生活の状況把握など日本人家族との関係の構築に向けた支援活動の展開が有用であると考えられた。家族関係構築の初期段階にある家族に対し、看護師が妊婦健診を利用し定期的にかかわることは、予防的側面も併せもつものでもあり、看護職の社会的な役割となりうることを示唆された。

(3) 今後の展望

現在の医療現場における在日外国人妊産婦の看護はいまだ発展途上であり、言葉の問題に対する支援策の検討が大半を占めている。出産後も日本で定住し、育児を含めた生活を営んでいく者としての看護の視点は十分とはいえない。したがって、これまでの様々な調査で得た知見を医療現場の看護活動とすり合わせ、臨床現場において円滑な実践につなぎ、実働させるシステムづくりは、今後の重要な課題であると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- 1) 蛎崎奈津子：国際結婚した中国人女性と日本人男性の関係構築にむけた知恵に根ざした諸行動—妊娠・出産・育児期に焦点をあてて—, 日本看護研究学会雑誌, 査読有, 33 (5), 2010, 15-24。
- 2) 蛎崎奈津子, 熊谷恭子, 奥寺忍, 伊藤洋子：アジア圏出身留学生とその妻が日本での妊娠期間中に直面した課題とその対応, 母性衛生, 査読有, 51 (2), 2010, 490-497。
- 3) 蛎崎奈津子：中国・吉林省長春市において出産後の女性が家族に期待する支援,

日本看護科学会誌, 査読有, 30 (1), 2010, 3-13。

- 4) 蛎崎奈津子：農村にて国際結婚した中国人女性の妊娠・出産時期における家族関係構築プロセス, 日本看護研究学会雑誌, 査読有, 32 (1), 2009, 59-67。

[学会発表] (計2件)

- 1) 蛎崎奈津子, 川村央隆：在日外国人子育て情報交換会の取り組み, 第20回岩手公衆衛生学会学術集会, 2009年2月28日, 岩手県。
- 2) 蛎崎奈津子：中国・吉林省長春市における妊娠・出産の慣習と家族の支援状況, 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008年12月13日, 福岡県。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

蛎崎奈津子 (KAKIZAKI NATSUKO)
岩手県立大学・看護学部・講師
研究者番号：80322337